

DIGITABLE 第 36 回勉強会レポート

2010年6月19日 於：亀戸文化センター 5F 第二研修室



デジタルフォト基礎講座 3 「パソコン画像処理入門①」：高木大輔 講師
参加者全員による “ライトニングトーク Vol.3” (持ち時間 5 分のショートトーク)
Photoshop 研究講座 「RAW 現像における色温度」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

デジタルフォト基礎講座 3 「パソコン画像処理入門①」：高木大輔 講師

パソコンへの取り込みと保存

撮影した写真をパソコンに取り込むことから始めよう。カメラに付属している専用 USB ケーブル、またはカードリーダーや PC カードアダプターなどの読み取り装置を使用する。各メーカーの RAW 画像、Photoshop の PSD 形式、イラストデータなどでも多用される EPS などは通常プレビューがついて来ないし、専門ソフトがなければ展開することも出来ない。自分のパソコン以外の汎用の環境で写真を見せるには JPEG などの形式にしておくことが常識だ。

専用・汎用 Browser を利用する

デジタル写真はポジやネガと違って、外側からの “一覧性がない” ので、パソコン上での写真の閲覧や整理の問題は極めて重要で、写真を閲覧していくソフトを Browser と呼ぶ。

通常はメーカー毎の専用 Browser を使用するケースが多いが、異なるメーカーの画像を一括管理したり、選別整理の効率を上げるために好みの汎用 Browser を使用する場合も多い。

フォトの翼 Pro はさまざまな画面の表示モードがワンタッチで切り替えられ、動作スピードも非常に速い。次々と表示される画像はあたかもアニメーションを見ているかのようだ。RAW 画像の対応機種に制限があるのが難点だが、スピード重視の「荒選り」には最適だ。

SILKYPIX は Browser としてはややスピードが遅いが、Pro では二画面表示が可能となり、こちらは調整をしながら選別もできる点が強みで、じっくりとした「最終選別」に好適だ。

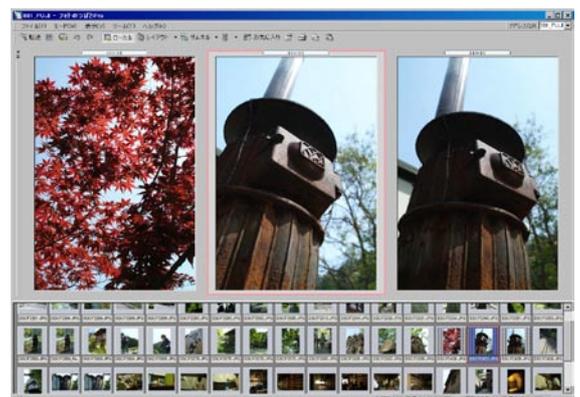
整理と保存

パソコン内に取り込んだフォルダには後々の検索や整理のため、体系づけられた名前を付けていこう。また作業が完了した各フォルダは CD・DVD などに書き出してバックアップメディアを作成するよう心がけよう。

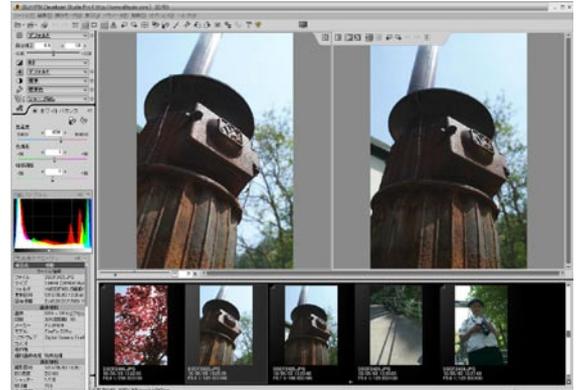
INDEX プリントによる整理

本来 “ペーパーレス” のデジタル化だが、実際には紙に印刷することによる “視覚化” が、整理上の鍵になる。データ整理上の必要性にとどまらず、視覚化による一覧性を得ることで、自己の作品を客観視することが重要でもある。各 Browser での INDEX 作成機能を見て自分に合ったものを探そう。

(コメントや意見の追加をお願いします)



フォトの翼はさまざまな表示が可能で動作も非常に速い



SILKYPIX Pro は調整をしながらじっくり選別できる



作業が完了した各フォルダは CD・DVD などに書き出してバックアップメディアを作成するよう心がけよう

参加者全員による“ライトニングトーク” (持ち時間5分のショートトーク)

今月も会員の旺盛な好奇心と発表精神に持ち時間オーバーが続出。いくつかの要旨をピックアップする。
TK氏はモバイル用にWindows7のPCを使用開始したところ、他のデスクトップ環境とAdobeCSシリーズのバージョンが合わなくなってしまい苦慮しているとのこと。
NYさんは『4月25日は何の日だったでしょうか?…』の問いかけに始まり、その日は世界ピンホールデーだったこと。デジタル時代にこそ見つめなおしたい素晴らしいピンホール作品を披露。
KS氏は地域活性とノートPCの新しい使用方法に挑戦中
KM氏は被写界深度の合成に取り組んでいる
YA氏は夏の旅行のワンポイントアドバイス
SR氏はiPadの活用法 Part II
HR氏はライフワークのデジタルアーカイブから、MOJOの写真集紹介。
IT氏はご自身のグループのGallareyサイトからの報告
AY氏は色相彩度の研究における中間報告
ST氏は日本橋の穴場として三井ビルの科学博物館別館の紹介
… 等々である。

(コメントや意見の追加をお願いします)

Photoshop 研究講座 「RAW 現像における色温度」 平野正志 講師

RAW 画像を汎用レタッチソフトで開いたとき、色温度の表示が撮影時のカメラ設定と異なって表示されてしまう。ホワイトバランス・・・カメラの使用説明書には「晴天」の色温度は5200kとある。

フォトショップRAW、シルキーピックス、ニコンNXでの初期の表示での「撮影状態でのホワイトバランス」で色温度表示のある数値を見てみると、カメラ撮影段階での色温度表示の数値と違いがある。

ニコン・キャノンを使いK、タングステン（タングステン光源）ストロボ（スタジオ用ストロボ）で撮影してみる。プリセット、マニュアルともにその場の光の状況を測定して、ホワイトバランスを決めるため大変有効な測定方法と考えられる。RGBの色の偏りが少なく色カブリが見られないのは有効だろう。

カメラによって資料とする画像の収集保存方法が違ったり、操作が一つ二つ段階が多かったりと違いがある。キャノンはターゲット画像を撮影ファイルとして残しそのファイルを読み込む。ニコンはプリセット内の資料として残し、画像ファイルにはならない、など違いがある。慣れもあるが、操作方法としてはニコンの方が簡単に感じる。また資料画像を撮影ファイルとして残さないのも、画像一覧に無駄な白い画像を残す事のない、ニコンが有効に思われる。

(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>



カメラでは5200kとされているが、フォトショップ・カメラRAWでは色温度は5000と表示される



テストに使用したターゲット画像



今月の1枚：『4月25日は何の日だったでしょうか?…』に始まり、素敵なピンホール作品を披露してくれたN会員